

現代社会にも通用する指南書!!

## 『 武田信玄 (全四巻) 』

新田 次郎 著 文藝春秋

工学部 機械工学科

ノダ ヨシユキ  
野田 善之

本館2階 一般書架 913.6

もしかしたら、多くの梨大生が読んでいるかもしれないが、あえて紹介したい。著者は「劔岳」や「孤高の人」などの山岳小説で有名な新田次郎氏で、2006年のベストセラーである「国家の品格」の著者である藤原正彦氏の父である。私はこの親子の作品を特に好んで読んでいる。

本作品のあとがきにも書かれているが、新田次郎氏は長野県諏訪の出身で甲州とは因縁が深く、武田信玄には惚れ込んでいたようで作品からもその気持ちが窺える。歴史小説としての面白みも然ることながら、私がこの本を薦める理由の一つは、この作品の舞台が皆さんに馴染みのある山梨であること。石水寺（積翠寺）や倉科（牧丘町）、志磨の湯（湯村温泉）、東光寺など甲府近隣の地名が多く現れ、山梨史跡巡りのガイドブックのようである。信玄が甲州を駆け巡っていた当時を想像しながら散策するのも楽しい。

また、武田信玄を語る際に軍師の山本勘助がよく取り上げられるが、信玄には駒井高白斎や馬場信春など知略に長けた有能な側近も多く、彼らの活躍が武田信玄を名将にしたといっても過言ではない。この作品は彼らの活躍が詳細に書かれており、信玄の魅力を高めるだけではなく、人材を機能させる組織力とは何かを考えさせられる内容となっている。さらに、武田信玄というと川中島や三方ヶ原の合戦などが有名で好戦的な武将のイメージが強いが、本作品では合戦後に制圧地の人々に安堵を与え、信頼を得る政策を実施している点を取り上げている。相手に良い仕事をしてもらうには、相手に信頼と安心を与えることの重要性を示している。このように歴史小説全般に言えることではあるが、本作品は現代社会にも通用する指南書としても活用できるのではないだろうか。



プレゼンテーションスキルを学び、向上させる!!

## 『 これだけは知っておきたい「プレゼンテーション」の基本と常識 』 若林郁代著 フォレスト出版

## 『 スティーブ・ジョブズ驚異のプレゼン 』 カーマイン・ガロ著 日経BP社

医学部整形外科学講座

ハロ ヒロタカ  
波呂 浩孝

分館2階 開架図書(第二) 336.49

医学部を卒業し研修医になった途端に、上司から研究会でスライドを使って発表するように指示されます。また、後期研修後に基盤領域の専門医試験を受験する際には、発表を行った実績を学会に報告しなければなりません。医師にとって、学会発表は卒業後避けられないものです。医学部以外の卒業生でも社会でプレゼンすることは必須でしょう。私も研修医時代に作成したスライドは酷いものでした。文字が羅列し原稿と同じ文をスライドに記載する、図や表の配置に一貫性がない、カラーを多用するがその法則が不明、見づらい、量が多く聴衆がついていけない、など限りがありません。プレゼンテーションは聴衆の時間を拘束し、自分の発見や意見を聞いていただくものであり、熱意は必要ですが好意的で打ち解けた雰囲気を作ることと何とんでもなく「お伝えする良いスライド」が必要です。米国の大学に留学していたときに、PhD courseの大学院の授業では“presentation”のコースは必須でした。スライドが文章だけでは聴衆の記憶に残りづらく、視覚と聴覚を駆使したスライドを作成することが重要です。また、原稿の文は短く、聴衆へのアイコンタクトと会場内で一定の見直しを行うことも聴衆に印象を残すために大切です。何日も苦勞して作成したスライドと原稿の発表ですから、できる限り会場の聴衆に印象深くかつ好意的にプレゼンテーションを終えたいものです。

そこで、この2つの本を紹介します。1は基本的なプレゼンテーションスキルのノウハウが満載です。2は応用編として、人を惹きつける伝導者といわれた故スティーブ・ジョブズ氏の法則が述べてあります。これらを参考にして良い原稿とスライドを作成し、後は何度も練習をすることで上達すると思います。みなさんの参考になれば幸いです。

